

* スモモヒメシンクイの発生園は、4月下旬にナシヒメコン(10a 当り100本)を設置する。尚、太陽(含む)以降の品種では7月中旬に再度設置する。

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)		収穫前 使用時期	使用 回数 (以内)	散布量 (ℓ)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	3月中下旬 (発芽前)	① (水 90ℓ) 展着剤 石灰硫黄合剤	10mℓ 10ℓ	発芽前	—	300	(ふくろみ病) (胴枯病) カイガラムシ類	①石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブルの 500 倍(14 日前、3回)を散布してもよい。※展着剤はアビオンーEの 1000 倍を使用する。 ②石灰硫黄合剤は隣接するハウスピニールに飛散しないようにする。
月 日	開花始め (1～2輪咲き)	②(展着剤) ICボルドー412	3.3kg	—	—	350	黒斑病 かいよう病	①展葉後の散布は薬害が著しいので、時期を厳守し他作物への飛散はしない。 ②菅野中生や秋姫の黒斑病、かいよう病発生園の展着剤は、アビオンーEの 1,000 倍を使用する。
月 日	落花後	③展着剤 オルフィンプラスフロアブル アグレプト水和剤	10mℓ 33mℓ 100g	前日 30日前	3回 2回	400	灰星病 黒斑病(かいよう病)	①シンクイムシ類の発生がある場合はフェニックスフロアブル 4000 倍(前日、2回)を加用する。 ②オルフィンプラスフロアブルに代えてオーシャインフロアブル3000倍(前日、3回)でもよい。
月 日	5月上旬 (前回より10日後)	④展着剤 サムコルフロアブル10 ウララ DF マイコシールド	10mℓ 40mℓ 50g 50g	3日前 7日前 21日前	3回 2回 3回	400	ケムシ類 シンクイムシ類 アブラムシ類 黒斑病(かいよう病)	①5月末までの農薬散布は、葉・果実とも軟弱であり、(時間帯・薬液量等)十分注意する。 ②アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 の剤はぶどうにかかると種無し果を生じるので隣接園に掛からないようにする。
月 日	5月中旬 (前回より10日後)	⑤展着剤 イカズチ WDG モスピラン顆粒水溶剤 アグレプト水和剤	10mℓ 66g 25g 100g	前日 前日 30日前	2回 3回 2回	400	シンクイムシ類 アブラムシ類 黒斑病(かいよう病)	①アグレプト水和剤、アグリマイシン-100 の剤はぶどうにかかると種無し果を生じるので隣接園に掛からないようにする。 ②カイガラムシ類の発生がある場合アブロードフロアブル 1000 倍(14 日前、3回)を特別散布する。
月 日	5月下旬 (前回より10日後)	⑥展着剤 バイスロイドEW マイコシールド	10mℓ 33mℓ 50g	14日前 21日前	2回 3回	500	アブラムシ類 (シンクイムシ類) 黒斑病(かいよう病)	①摘果果実は、腐敗病、シンクイムシ類の伝染源になりやすいため、園外へ除去する。・葉・果実とも軟弱であり、散布の時間帯・薬液量等十分に注意する ③カイガラムシ類の発生がある場合は、コルト顆粒水和剤の 2,000 倍(前日、3回)を加用する。
月 日	6月上旬 (前回より10日後)	⑦展着剤 ダーズバンDF バリアード顆粒水和剤 マイコシールド	10mℓ 33g 25g 50g	14日前 前日 21日前	2回 2回 3回	500	シンクイムシ類 ウメシロカイガラムシ モモノゴマダラノメイガ 黒斑病(かいよう病)	①大石早生は、マイコシールド 2000 倍を除いてよい。(収穫前使用規制厳守) ②授粉樹が病害虫の発生源にならないよう、授粉樹への防除も徹底する。 ③スモモヒメシンクイムシの卵が果実に散見された場合、スプラサイド水和剤 1500 倍(14 日前、2回)を特別散布する。
月 日	6月中旬 (前回より10日後)	⑧展着剤 オンリーワンフロアブル サムコルフロアブル10	10mℓ 50mℓ 40mℓ	前日 3日前	3回 3回	500	シンクイムシ類 (ケムシ類) 灰星病	①秋姫・紅りょうぜん・菅野中生などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合は、バリダシン液剤5の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を加用する。
月 日	6月下旬 (前回より10日後)	⑨展着剤 ベルコートフロアブル バリアード顆粒水和剤	10mℓ 50mℓ 50g	3日前 前日	3回 2回	500	アブラムシ類 (シンクイムシ類) 灰星病(すす点病)	①秋姫などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)を加用散布する。
月 日	7月上旬 (前回より10日後)	⑩ (展着剤、まくぴか) バイスロイドEW フルーツセイバー	33mℓ 66mℓ	14日前 前日	2回 3回	500	シンクイムシ類 アブラムシ類 灰星病	①今回以降の展着剤は、シリコーン系展着剤まくぴか 5000 倍を使用してもよい。(湿展性改善、果粉溶脱、果実汚染防止、など) ②紅りょうぜん等の収穫時期が近い品種はバイスロイドEW3000 倍に代えてモスピラン顆粒水溶剤の 2,000 倍(前日、3回)を使用する。
月 日	7月中旬 (前回より10日後)	⑪ (まくぴか) テツパン液剤 アルバリン顆粒水溶剤	50mℓ 50g	前日 前日	2回 3回	500	シンクイムシ類 カメムシ類ケムシ類	①秋姫などで黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)又はスターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を加用する。
月 日	7月下旬 (前回より10日後)	⑫ (まくぴか) フリントフロアブル 25 アーデントフロアブル	50mℓ 50mℓ	前日 前日	2回 3回	500	シンクイムシ類 カメムシ類ケムシ類 ハダニ類 灰星病(すす点病)	①秋姫など晩生種で黒斑病(かいよう病)の発生がある場合はバリダシン液剤 5 の 500 倍(14 日前、4回)を加用する。
月 日	8月上旬 (前回より10日後)	⑬ (まくぴか) フェニックスフロアブル イカズチWDG	25mℓ 66g	前日 前日	2回 2回	500	シンクイムシ類 ケムシ類 ハマキムシ類	①9月まで、シンクイムシ類の発生数が多い。散布時に死角ができないよう注意する。
月 日	8月中旬 (前回より10日後)	⑭ (まくぴか) オルフィンプラスフロアブル アーデントフロアブル	33mℓ 50mℓ	前日 前日	3回 3回	500	(シンクイムシ類) (ケムシ類) ハダニ類 灰星病(すす点病)	①秋姫で、かいよう病の発生がある場合は、スターナ水和剤 1000 倍(7 日前、3回)を加用散布する。
月 日	8月下旬 (前回より10日後)	⑮ (まくぴか) テツパン液剤 オーシャインフロアブル	50mℓ 33mℓ	前日 前日	2回 3回	500	シンクイムシ類 ケムシ類 灰星病	①園地の外周や授粉樹へも薬液が届くよう防除する。 ②シンクイムシ類の発生が多い場合モスピラン顆粒水溶剤 4000 倍(前日、3 回)を加用散布する。
* 晩生種特別散布 : 9月上旬 ・フリントフロアブル 25 の 2000 倍(前日、2回)とアーデントフロアブル 2000 倍(前日、3回)を散布する。								
月 日	収穫終了後 2～3回の 防除	⑯・⑰ (展着剤) ICボルドー412	3.3kg	—	—	400	黒斑病 かいよう病	①ボルドー液は他作物に飛散しないようにする。 ②展着剤はアビオンーE1000 倍かK.Kステッカー3000 倍を使用する。 尚、K.Kステッカーを使用する場合は必ず最後に調合する。 【落葉後～萌芽前までの防除】 ①コスカシバの防除はトラサイドA乳剤200倍を(休眠期、2回)を樹幹部及び主枝に散布する。
月 日	【特別散布】 落葉後 (11月下旬以降)	スプレーオイル 石灰硫黄合剤	2ℓ 10ℓ	発芽前 発芽前	— —	300	カイガラムシ類 ふくろみ病	①落葉前に散布すると薬害が発生する恐れがあるため、散布時期に十分注意する。 ②発芽前の防除が積雪の影響で遅れる場合等散布する。

安全・安心な農産物生産のために防除・使用規準を厳守しましょう。
* 農薬散布の際は、隣接園・他作物へ飛散しないようにする。

当防除暦の複製・コピーの禁止